

## 教科化で求められる多様な指導方法2

平成26年10月21日、中教審が文部科学大臣に、道徳の時間を教科として教育課程に位置づけるよう答申しました。これで、道徳の授業は平成30年から、検定教科書を用いて教科として指導されることとなります。答申の中で、「多様で効果的な道徳教育の指導方法への改善」が求められ、役割演技と共に「コミュニケーションに係る具体的な動作や所作の在り方等に関する学習などの指導」が例示されています。具体的には、エンカウンターやソーシャルスキルトレーニングのことで

エンカウンターグループは、アメリカの心理学者カール・ロジャーズが開発した集団心理療法で、グループのメンバーがそれぞれ本音を言い合うことで互いの理解を深め、自分自身の受容と成長、対人関係の改善などを目指す治療の方法です。

学校で行われているエンカウンターのほとんどは、構成的グループエンカウンター（SGE）といわれるもので、リーダーから与えられた課題を「エクササイズ」と、その後グループでそれぞれが感じたことを言い合う「シェアリング」によって構成されます。

学校のクラスのような多人数のメンバーでも活用可能であるという点に特徴があります。個人の問題に焦点を当てるのではなく、エクササイズによる共通体験の中で沸き起こった感情について相互交流していくこととなるので、交流の方向や深度をコントロールでき、また、短時間でできるという利点もあります。

構成的グループ・エンカウンターは一般的に、次のように行われます。

### ① インストラクション

これから取り組む活動の目的や方法を、リーダーが具体的に述べる。

コミュニケーションに係る具体的な動作や所作の在り方等に関する学習などの指導

### ② ウォーミングアップ

取り組む前のメンバーの緊張をほぐしたり、その後続くエクササイズの意欲を喚起したりする活動を行う。

### ③ エクササイズ

心理的成長を意図しグループ体験を行う。

### ④ シェアリング

エクササイズを通して得た感情や思いを、自分の中で、そして他のメンバーと分かち合うことを通して、意識化する。

グループで体験的な活動に取り組む中で話し合ったり、活動を振り返ってシェアリングをしたりするなかで、「こう感じていたのは自分だけじゃなかったんだ」「自分の考え方はこういう特徴があったんだ」など、自分自身を振り返ることができ、他の人との共通点や違いを、自分自身で見出すことができます。

一方、ソーシャルスキルとは対人関係や集団行動を上手に営んでいくための技能（スキル）のことです。対人場面において、相手に適切に反応するために用いられる言語的・非言語的な対人行動のことで、その対人行動を習得する練習のことをソーシャルスキルトレーニング（SST）といいます。特に、学級集団を対象として意図的・計画的に行われるものをソーシャルスキル教育という場合もあります。ソーシャルスキルは、生まれながらに持っている能力ではありません。多くの人たちと関わりながら身に付けていきます。ほとんど子どもたちはわざわざトレーニングをしなくてもお、親や周りの人たちの行動を見聞きしたり、注意を受けたり教えてもらったりするなど言葉で習ったりして、自然に社会生活に必要な行動を習得していきます。しかし、情緒の発達にアンバランスがあったり、集団の中に入りにくかったりする子供にとっては、人との関わりの場を持つこ

とが少なく、スキルの獲得が困難になりやすい傾向があります。このような対人関係につまずきを示す子供がそれぞれの発達段階において獲得すべきスキルを習得するためには、「上手な聴き方」「温かい言葉のかけ方」「仲間への入り方・誘い方」「上手な頼み方・断り方」等のようなスキルトレーニングが必要となります。

ソーシャルスキルのトレーニングは、以下のような方法を用いるのが一般的です。

#### ① インストラクション（動機づけ）

なぜそのスキルが必要か、そのスキルが身についているとどんな良さがあるか言葉や絵カードなどを用いて説明して教える。

#### ② モデリング

手本となる他者の振舞い（スキル）を見せて学ばせる。または不適切な振舞いを見せどこに間違いがあるかを考えさせる。

#### ③ リハーサル

スキルを先生や友達を相手にして実際に練習する。主にロールプレイングの手法を用いる。

#### ④ フィードバック

行動や反応を振り返り、それが適切であれば褒め、不適切であれば修正の指示を行う。

#### ⑤ 定着化（日常生活で行わせる）

学んだスキルを指導場面以外のどんな場面（時、人、場所）にでも発揮できるようにする。

「上手な断り方」の実際は次のようになります。

#### 【獲得目標とするスキル】

- ・断り方の種類を知る。
- ・断りの言葉の内容を知る。
- ・相手に自分の気持ちを伝える断り方ができる。

#### 【展 開】

#### ① インストラクション

- ・家で用事があるのに、友達から「帰ったら遊ぼう」と言われたら何と答えますか。

#### ② モデリング

- ・攻撃的、非主張的な断り方を演じて見せ、子供に感想を聞く。
- ・自分の考えをはっきり伝えても友だちでいられる断り方を考えてワークシートに記入し

て発表する。

- ・発表をもとに、上手な断り方をまとめる。「ごめん」と謝る。断る理由を言う。はっきりと断る。代わりの意見を言う。

#### ③ リハーサル

- ・4つのポイントを断りカードに書き、ポイントに沿って具体的なセリフを考えて書く。
- ・セリフの練習をする。
- ・3人グループ（断る人、断られる人、観察者になる）で順番に断る練習をする。観察者は良いところを見つけ、アドバイスをする。

#### ④ フィードバック

- ・授業の感想を発表し合う。

さて、道徳の授業では、次の3つのことを1時間で行います。

- (1)道徳的価値そのものがどういうものを理解させる。
- (2)道徳的価値を自分の生活とのかかわりの中でとらえさせる。
- (3)今後の生活で高い価値に基づいた行動を行うための自分の課題を自覚させる。

では、SGEやSSTがこれらの要件があるかといえば、(2)と(3)は何とか行けそうですが、(1)の道的価値に関する学びが見られません。そのために、今まで、私はSGCやSSTを行った場合、授業としては総合や特活の授業でカウントしてきました。でも、教科化論議の中で、現代の子供の抱える問題をクリアするためには、道徳でも、情意的側面の指導だけではなく、行動化や習慣化など行動的側面を重視した指導があつてしかるべきだという方向になりました。

そこで考えたいことが、どうすれば道徳らしいSGEやSSTにすることができるかということです。シェアリングやフィードバックで出された感じ方や問題に対するよりよい対処方法には、必ず共通する心情や価値判断があります。授業の最後の段階で、ねらう価値に重点を置いた振り返りをさせることで、道徳らしい授業になるものと考えています。ぜひとも挑戦してみてください。